

～ 遺跡の価値を活かし伝えるための 3 つの柱(必須) ～

1

遺跡の価値をわかりやすく開示する

(プロムナード等の空間で実現可能な遺跡の見せ方の試み)

文化財的価値

- (1) 現地(オリジナル)保存
遺存状態での凍結保存
- (2) 出土部材移築復元保存
出土地盤レベルでの復元
(古代から近代、現代へ続く歴史の積層が明確に正しく目に見えることが重要)
- (3) 調査・研究成果の展示

都市空間的価値

- (1) 「都市断面構造」が目に見える
居留地の道路遺構等の都市基盤を示す遺構と連続して居留地建築の遺構が見える
- (2) 一般市民にも分かりやすい遺跡の郷土的意味が目に見える
出土した遺構の持つ機能や当時の技術、郷土的意味を市民にわかりやすく伝える
(横浜村、旧居留地(幕府建設)、豚屋火事、コッキング商会等の外国人の活動や技術)
- (3) 歴史とロマンを感じる良質な空間
かつての居留地を偲ばせる、横浜らしさをもつ空間を演出する

2

遺跡の価値を正確かつ多角的に検証する

((仮称)山下居留地遺跡保存活用検討委員会の設立と定期開催)

★構成メンバー(以下必須)

行政(県、市)、学識経験者(近代建築、都市史)、文化財保存修復専門家(近代建築保存修復、埋蔵文化財)

3

横浜市認定歴史的建造物の認定

■プロムナードイメージ図

